

北海道銀杏回 第26回講演会

日時 2016年11月10日(木) 18時00分～20時00分

場所 ホテルサンルート札幌3階 「宗谷」

講師 日本郵便株式会社 北海道支社長 中江 紳悟 様

本日は、講師に日本郵便株式会社 北海道支社長でいらっしゃる中江紳悟様をお迎えし、「郵政事業の現況と取組みについて」と題してご講演いただきました。

ご講演は、①郵政事業の歴史、②郵便局ネットワークの活用、③将来にむけた取組み、の視点よりお話されました。話題は大変豊富で、何事にもエネルギーに組み込まれていることがありありと伝わってくる内容でした。紙面では、そのことが上手くご紹介できず残念です。

質疑応答では、民営化で求められる効率と公益サービスのバランスをどのように考えるかなど、熱心な質問で盛り上がりました。時間切れでやむを得ず打ち切りとなるほど、充実した講演会でした。ご講演いただきました中江北海道支社長と参加された会員の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、時間切れで質問できなかった皆様にお詫び申し上げます。

1. 郵政事業の歴史

- (1) 明治初期の1871年に通信インフラの近代化を目的に郵便制度がスタート。2007年に民営・分社化し日本郵政グループが発足。2015年には日本郵政グループ3社が上場(日本郵政、ゆうちょ、かんぽ)。2021年には郵政事業150周年を迎える。
- (2) 郵便制度のネットワークの上に、郵便・物流、貯金、保険、提携金融、物販、広告、不動産など様々なサービスを展開してきた。全国の郵便局数は2万4千とセブンイレブンを上回り、社員数は40万人。
- (3) 郵政民営化法により、「日本郵政」が保有する「ゆうちょ」「かんぽ」、の株式はすでに11%が売却され、できるだけ早期にすべて売却されることとなっている。「日本郵便」については今後も100%保持。また、「日本郵政」の株式は1/3超は政府が保有することになっている。

2. 郵便局ネットワークの活用

- (1) 日本郵便の経営理念は次のとおり。過疎地にもあまねくネットワークを維持し、日本の元気に役立ちたい。

「日本郵便は、全国津々浦々の郵便局と配達網等、その機能と資源を最大限に活用して、地域のニーズに合ったサービスを安全、確実、迅速に提供し、人々の生活を生涯にわたって支援することで、触れ合いあふれる豊かな暮らしの実現に貢献します。」
--

- (2) 郵便物流サービスでは、子会社である豪州物流企業と連携しアジアにおける日系企業ニーズに対応。あるいは、通販にかかる様々なニーズや、より便利な受け取り方法などにきめ細かく対応している。また集配の一層の効率化にむけた拠点を整備しており、北海道では歴年来、来春、日本最大の物流ソリューション機能を備えた道央札幌郵便局を開設する。
- (3) その他にも、地域名産品の販路拡大にむけたふるさと小包、外部金融機関と提携した様々

な金融サービス、高齢者等への見守りサービスなどなど、幅広く展開。

3. 将来にむけた取組み

- (1) 人口オーナスの時代に応じた生産性の高い働き方改革、農業の六次産業化やA I の活用など各方面から意見を聞いて研究している。
- (2) 幅広い意見や知識を取り込んだ経営とするためにも、ダイバーシティへの取り組みを積極的に進めていく。また社員間の意見交流から新しい成長のきっかけが生まれると考え、そのような場として北海道支社ではスカイテラスを設置した。
- (3) 将来にわたって世界に認められる上で、普遍的な心のありようが無くてはならないと考えている。日本には、武士道という素晴らしいものがあり、そこから学ぶことは大変価値があると考えている。

(文責 渡辺知博)